

## 第13回の復習課題

### 試験の実施方法

kiso2 コマンドで「試験」表示されたファイルは、試験として実施されます。「試験」として出題されたファイルもkiso2 コマンドを用いて提出しますが、これらのファイルは試験実施中のみ提出することができます。

試験の実施方法は、以下の通りです。

1. 端末(ターミナル)上から、kiso2 コマンドに `-start-exam` オプションを付けて実行 (`kiso2 -start-exam`) することで試験が開始されます。表示フォントの関係で見にくいかもしれませんが、kiso2 の後にスペースを開けて `-start-exam` (先頭のハイフンは2つ「マイナス・マイナス」`start`「マイナス」`exam`) です。
2. 試験が開始されると、試験開始のメッセージと共にウェブブラウザで試験用Webページが自動的に表示されます。
3. 試験の実施中は、端末(ターミナル)上で経過時間と残り時間が不定期に更新され、kiso2 コマンドで「試験」表示されたファイルが提出できます。
4. kiso2 コマンドで「試験」ファイルを提出する場合は、kiso2 `-start-exam` で試験を開始した端末(ターミナル)とは別の端末(ターミナル)をもう一つ起動し、その端末でkiso2 コマンドによるファイルの提出を行ってください。
5. 試験実施中は、不定期にデスクトップ画面のスクリーンショットが取得されます。
6. 試験の残り時間が100秒を切ると1秒毎のカウントダウンが表示され、残り時間が0になると `kiso2 -start-exam` コマンドと共に試験が終了します。
7. `kiso2 -start-exam` コマンドが強制終了されると、そのままでは再度 `kiso2 -start-exam` を実行できなくなります。操作を誤って強制終了してしまった場合は、速やかに試験監督に申し出て下さい。再度 `kiso2 -start-exam` コマンドが実行できるようにします。ただし、再起動された `kiso2 -start-exam` コマンドは、再起動される度に残り試験時間が10分ずつ減るので注意して下さい。

ex14 のすべての課題は「試験」実施の練習用課題として出題されています。「試験の実施方法」をよく読んで、試験に参加できるようにしておいてください。現在は、1回の試験時間を10分とし、何度でも試験に参加できるように設定されていますので、繰り返し試験問題の提出を練習しておいてください。

### ex13-7.c

大きさ50の整数型の配列変数 `data[]` が以下のように与えられている。同じ大きさ50の2つの整数型配列 `even[]`, `odd[]` を用意し、`even[]` には `data[]` の要素のうち値が偶数のものを、また `odd[]` には奇数のものを順に代入し、それらを出力するプログラム **ex13-7.c** を作成してkiso2コマンドを用いて提出しなさい。

```
int data[] = {49, 20, 76, 16, 62, 0, 20, 80, 58, 25, 25, 48, 100, 25, 85,
34, 75, 21, 87, 32, 41, 92, 90, 54, 0,
1, 58, 56, 8, 83, 90, 44, 15, 84, 28, 26, 52, 6, 66, 57, 81,
58, 1, 67, 69, 70, 27, 18, 95, 67};
```

実行例：

```
t180900@s01cd0542-160:~/kiso2-2018/ex13$ ./ex13-7
```

EVEN: 20 76 16 62 0 20 80 58 48 100 34 32 92 90 54 0 58 56 8 90 44 84 28 26  
52 6 66 58 70 18  
ODD: 49 25 25 25 85 75 21 87 41 1 83 15 57 81 1 67 69 27 95 67

[第14回基本課題へ](#)

From:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/> - **www-slab.math**

Permanent link:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/lecture/kiso2/rev13>



Last update: **2019/01/10 15:38**